

○計画期間:平成29年4月～令和5年3月(6年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点(令和4年3月31日時点)の中心市街地の概況

熊本地震から6年が経過する中、後述する桜町地区再開発事業や熊本駅周辺における整備事業といった主要な事業が完了する等、中心市街地活性化基本計画に掲げる震災からの復興が進んでいる。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、市民の外出自粛やイベント等の中止は、本市の中心市街地における賑わいの創出に大きな打撃を与えている。

熊本城地区では、熊本城復旧基本計画に基づき、効率的・計画的な復旧を進めるとともに、戦略的な公開・活用に取り組んでいる。令和2年3月に完成した特別見学通路は、同年6月より特別公開第2弾として公開され、これまでと違う視点で被害状況や復旧中の熊本城を観覧できるようになった。また、令和3年3月には天守閣が完全復旧し、同年6月から天守閣内部公開（特別公開第3弾）を開始した。

通町筋・桜町周辺地区では、通町筋周辺において、令和2年2月に閉店した「熊本パルコ」ビルが解体され、複合ビルの建設が進んでいる。

桜町周辺においては、桜町地区再開発事業により、バスターミナル、商業施設「SAKURAMACHI Kumamoto」、「熊本城ホール」を含む再開発施設が令和元年に開業した。また、これに隣接する花畑広場（シンボルプロムナード含む）では、2つの既存都市公園を含めて一体的にオープンスペースとして活用するための工事を令和2年1月から実施し、令和3年4月に花畑公園の供用開始、同年11月には全体の供用が開始された。令和4年3月から同年5月には第38回全国都市緑化くまもとフェアが開催され、メインエリアの一つとして街なかエリア（熊本城公園及び花畑広場一帯）が設定されており、多くの人で賑わった。

新町・古町地区においては、歴史的建造物の利活用を促すための制度・体制の構築が図られた。また、町屋等の歴史的建造物を保存・活用することで景観資源としての価値を活かし、昔ながらの外観を保ちつつもその用途をカフェやゲストハウスとして利用する等、町屋保存に向けた動きが近年広がっている。

熊本駅周辺地区では、令和3年3月に熊本駅白川口（東口）駅前広場が完成し、同年4月にはJR熊本駅ビルが新たに開業した。駅の利用者や観光客の利便性を高めた熊本の玄関口としての役割が更に向上されるものと期待されている。

なお、令和元年に開催されたラグビーワールドカップ及び女子ハンドボール世界選手権大会の二つの国際スポーツ大会に国内外から多くの観光客が来熊したことに伴い、交流人口が拡大し、市内はもとより中心市街地の活性化を図ることに繋がったが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光客数が減少する等人々の交流機会が減少した。

今後も震災からの復興に取り組むとともに、新しい生活様式に対応したまちづくりを進める

等、常に変化する社会の状況を注視しつつ、これまで以上に中心市街地の活性化に取り組むものである。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和28年度 (計画前年度)	令和29年度 (1年目)	令和30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)	令和4年度 (6年目)
人口	36,792人	37,013人	37,132人	36,994人	37,202人	37,617人	
人口増減数	▲241人	221人	119人	▲138人	208人	415人	
自然増減数	▲60人	▲18人	▲62人	▲109人	▲31人	▲44	
社会増減数	▲181人	239人	181人	▲29人	239人	459	
転入者数	4,544人	4,133人	4,268人	4,284人	4,452人	4,429	

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和28年度 (計画前年度)	令和29年度 (1年目)	令和30年度 (2年目)	令和元年度 (3年目)	令和2年度 (4年目)	令和3年度 (5年目)	令和4年度 (6年目)
中心市街地 商業地域 平均	478,083	488,583	551,583	644,416	745,750	684,846	
下通1丁目 12番23	898,000	915,000	1,040,000	1,250,000	1,460,000	1,430,000	
上通町 1番16	915,000	930,000	1,050,000	1,230,000	1,380,000	1,370,000	
花畑町 12番6外	409,000	414,000	455,000	535,000	665,000	648,000	
新町1丁目 7番36外	148,000	151,000	158,000	173,000	188,000	194,000	
中央街 4番30	383,000	392,000	425,000	498,000	595,000	589,000	
上鍛冶屋町 8番2	182,000	184,000	192,000	201,000	208,000	210,000	
呉服町2丁目 36番1 外	191,000	193,000	202,000	212,000	219,000	221,000	
草葉町 4番9	284,000	292,000	315,000	362,000	415,000	420,000	
下通1丁目 3番3	1,390,000	1,440,000	1,760,000	2,130,000	2,470,000	2,440,000	
安政町 4番11	343,000	349,000	376,000	424,000	495,000	507,000	
辛島町 4番6	327,000	330,000	351,000	388,000	469,000	483,000	
上林町 1番25外	267,000	273,000	295,000	330,000	385,000	391,000	

2. 令和3年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

熊本地震から6年が経過、中心市街地ではビルや店舗等の復旧・復興が着実に進み多くが事業再開するなど、創造的復興に向け順調に歩みを進めている。一方で3年にわたり影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症による外出自粛や、飲食業を中心とした休業・営業時間の短縮要請などは地域経済や市民生活に大きな打撃を与えている。

そのような中、桜町再開発事業においては、令和元年9月の「SAKURAMACHI Kumamoto」開業に続く、花畑広場の整備も進み、令和3年4月から11月にかけて順次供用が開始された。

また、熊本地震によって大きな被害を受けた熊本城も天守閣の復旧工事が完了、令和3年6月28日から天守閣内部の一般公開となった。

熊本駅周辺においては、令和3年4月にJR熊本駅ビルがグランドオープン、それにつながる駅前広場の整備も完了した。

これらのように第3期認定基本計画に掲げられた主な取り組みは順調に進捗したものと評価している。その効果は「中心市街地の居住人口」に関する第2の指標の推移にも見て取れる。

一方、熊本城域への入込者数及びイベント来場者数に関する第1の指標、熊本市内の宿泊者数に関する第3の指標については、令和3年度末時点では目標を達成できなかった。これは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、外出自粛要請や海外からの入国制限が続き、旅行や外出行動はもとより通勤通学までも厳しく制約されたこと、さらには計画に掲げたソフト関連事業自体を断念せざるを得なかったことに加え、予定通りに達成できた大規模事業すらもその整備効果を十分に発揮できなかったことなどの事情があり、止むを得なかったと考えている。

こうした状況を踏まえ、熊本市においては、現第3期計画を1年延長し、現計画の目標達成に注力しつつ、withコロナ・アフターコロナの経済社会の要請に応える中心市街地の在り方や活性化策を第4期の計画として発展的に検討することが必要であると考えます。

なお、本協議会では、令和3年度の活動のひとつとして、中心市街地の将来ビジョン「熊本市中心市街地グランドデザイン2050」の推進支援を掲げ活動してきた。

この「熊本市中心市街地グランドデザイン2050」については、4つの部会での議論を重ね、様々な事業のアイデアが出され、その取り組みの中で誕生した「熊本城前まちづくり協議会」では「くまもと城前未来ビジョン2050 Ver.1」が公表されている。

本協議会としては、次期計画の策定に際し、更なる情報の共有化、活発な議論の機会をより多く設けていただき、これらのアイデアも参考に、新型コロナウイルス感染症によって変化する社会情勢、及び、脱炭素社会に向けた様々な環境や状況の変化を踏まえ、将来を見据えた計画が策定されるよう希望するもの。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
にぎわいあふれる城下町	熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数	1,921,762 人/年 (平成 28 年度) (2016 年度)	2,650,000 人/年 (令和 4 年度) (2022 年度)	1,344,758 人/年 (令和 3 年度) (2021 年度)	C	1	1
安心してずっと暮らしたいまち	中心市街地内の居住人口	36,604 人 (平成 28 年 10 月 1 日) (2016 年 10 月 1 日)	37,000 人 (令和 3 年 10 月 1 日) (2021 年 10 月 1 日)	37,682 人 (令和 3 年 10 月 1 日) (2021 年 10 月 1 日)	A	①	①
誰もが訪れてみたくなるまち	熊本市内の宿泊客数	2,637,637 人/年 (平成 27 年) (2015 年)	3,000,000 人/年 (令和 4 年) (2022 年度)	— 人/年 (令和 3 年) (2021 年)	—	—	—

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

① 目標達成が見込まれる ② 目標達成が見込まれない

※ 関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市内外からの観光客が減少したことから目標値を大きく下回った。一方、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が令和 3 年 2 月から開始され、ワクチン接種と新しい生活様式の広がりにより、新たな行動様式のもと本市における交流人口の増加と、経済再生が期待されている。また、令和 3 年 11 月に花畑広場の全面供用が開始し、令和 4 年 3 月から同年 5 月には第 38 回全国都市緑化くまもとフェアが開催されることから、目標達成が見込まれると評価した。

「中心市街地内の居住人口」については、企業立地を促進し、産業の振興による雇用の拡大を図るとともに、UIJ ターン促進による居住の増加に取り組むことにより、目標値を上回った。

「熊本市内の宿泊客数」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、宿泊客数の集計に時間を要しているため最新値の更新が行えなかった。

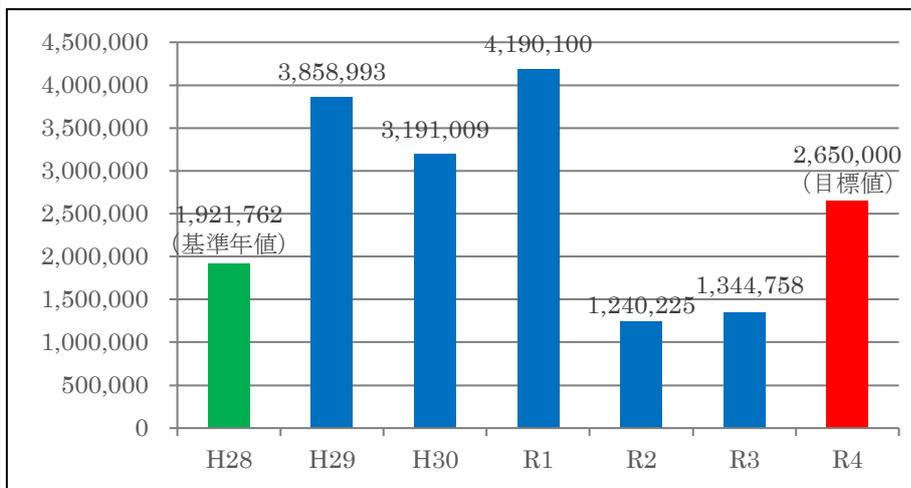
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「熊本城公園(熊本城、城彩苑等)への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数」 ※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 73～P. 75 参照

●調査結果と分析



年	(単位) 人/年
H28	1,921,762 (基準年値)
H29	3,858,993
H30	3,191,009
R1	4,190,100
R2	1,240,225
R3	1,344,758
R4	2,650,000 (目標値)

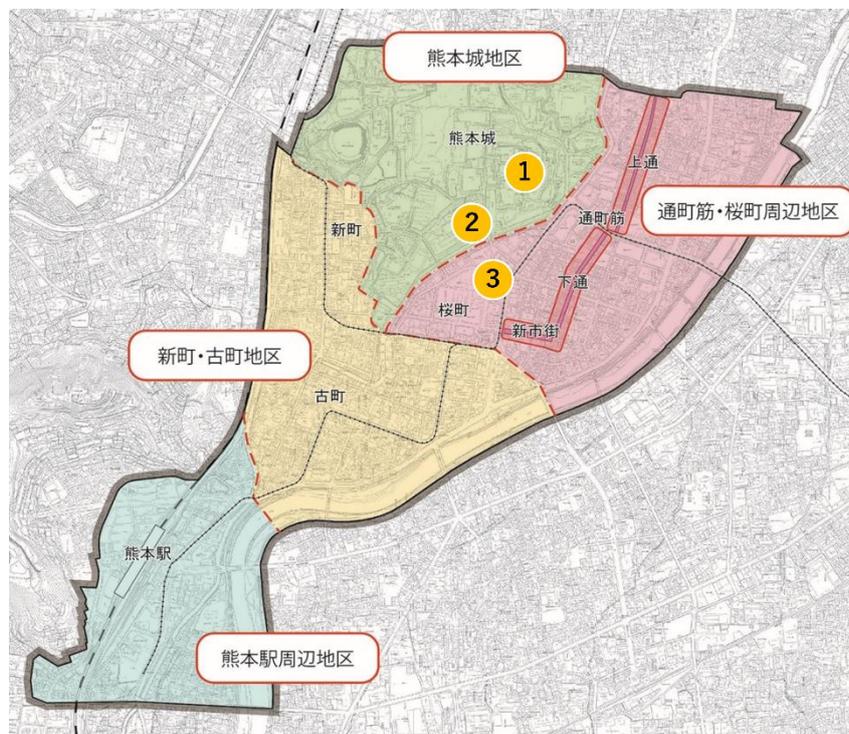
※調査方法：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者を計測

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者

<調査場所>



調査場所

- ① 熊本城
- ② 城彩苑
- ③ 花畑広場周辺

〈分析内容〉

H28 年度から R2 年度までの熊本城来場者数は、熊本地震により天守閣等が被災していることもあり二の丸広場の来場者数を計測値としていたが、天守閣が完全復旧し、R3 年 6 月より天守閣内部公開を開始したため R3 年度以降は熊本城入園者数を計測値としている。熊本城公園（熊本城、城彩苑等）来場者、桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者に寄与する事業のうち、後述するハード整備事業については予定通り進捗し、一部は完了したが、来場者数は約 130 万人にとどまっている。このことは、R2 年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大が続いており、市内外からの観光客数が大きく減少したことが原因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城復旧整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】														
事業概要	復興のシンボルである「天守閣」をはじめ、石垣・建造物や便益施設等を含む熊本城全体の復旧を行う。														
国の支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁）（H29 年度～R4 年度） 都市災害復旧事業費補助（国土交通省）（H29 年度～R4 年度） 防災・安全交付金（都市公園安全・安心対策事業）（国土交通省）（H29 年度～R2 年度）														
事業目標値・最新値及び進捗状況	熊本城公園への入込数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和 2 年以降落ち込んでいる。熊本城への入込数は、前年度までと計測方法が異なるため比較できないが、城彩苑への入込数は令和 3 年 6 月より行われた天守閣内部公開（特別公開第 3 弾）により、令和 2 年度から令和 3 年度にかけては回復傾向が見られる。 【熊本城公園への入込数】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度 (2019 年度)</th> <th>令和 2 年度 (2020 年度)</th> <th>令和 3 年度 (2021 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熊本城</td> <td>1,968,652 人</td> <td>757,501 人</td> <td>447,851 人 ※前年度までと計測 方法が異なる。</td> </tr> <tr> <td>城彩苑</td> <td>1,194,732 人</td> <td>482,724 人</td> <td>614,316 人</td> </tr> </tbody> </table>				令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)	熊本城	1,968,652 人	757,501 人	447,851 人 ※前年度までと計測 方法が異なる。	城彩苑	1,194,732 人	482,724 人	614,316 人
	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)												
熊本城	1,968,652 人	757,501 人	447,851 人 ※前年度までと計測 方法が異なる。												
城彩苑	1,194,732 人	482,724 人	614,316 人												
事業の今後について	事業は、熊本城復旧基本計画に基づき順調に進捗しており、2038 年度の全体復旧に向けて今後も着実に事業を進めていく。														

②. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）

事業実施期間	平成 20 年～令和 2 年度【済】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。

国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度）</p> <p>防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度）</p> <p>防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）</p> <p>災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度）</p> <p>都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度）</p>
事業効果及び進捗状況	<p>本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設の整備を行うとともに、広域バスターミナルや商業・交流機能等を備えた施設整備を行うことで、桜町・花畑周辺地区の賑わいの創出を図る。</p> <p>【スケジュール】</p> <p>令和2年度（2020年度） 清算、終了認可</p>
事業の今後について	<p>今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、桜町・花畑地区のにぎわい創出の一助となると見込まれる。</p>

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成25年度～令和4年度【実施中】								
事業概要	<p>熊本城と中心市街地との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。</p>								
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30年度～R3年度）</p>								
事業効果及び進捗状況	<p>令和3年11月から全面供用を開始したが、令和4年1月からは第38回全国都市緑化くまもとフェア（開催期間：令和4年3月19日～同年5月22日）の準備期間となり令和3年度の供用期間は約2か月であったため、工事開始前の令和元年度と比較して約3割の来場者数であった。</p> <p>【花畑広場来場者数】</p> <table border="1" data-bbox="539 1697 1241 1888"> <thead> <tr> <th>令和元年度 （2019年度）</th> <th>令和2年度 （2020年度）</th> <th>令和3年度 （2021年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,026,716人</td> <td>0人（イベント等の開催なし）</td> <td>282,591人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【スケジュール】</p> <p>令和2年度（2020年度） 施設工事</p> <p>令和3年度（2021年度） 全面供用開始</p>			令和元年度 （2019年度）	令和2年度 （2020年度）	令和3年度 （2021年度）	1,026,716人	0人（イベント等の開催なし）	282,591人
令和元年度 （2019年度）	令和2年度 （2020年度）	令和3年度 （2021年度）							
1,026,716人	0人（イベント等の開催なし）	282,591人							

事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、桜町・花畑地区のにぎわい創出の一助となると見込まれる。
-----------	---

④. 熊本城周遊バス運行事業（熊本市）

事業実施期間	平成18年度～【実施中】						
事業概要	熊本駅を発着とし、熊本城を含む市内中心部等をつなぐ周遊バスを運行する。						
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年4月～R5年3月）						
事業効果及び進捗状況	<p>熊本駅と熊本城・城彩苑を含む市内中心部等をつなぐことにより、中心市街地内の回遊性向上につながるとともに、熊本城へのアクセスも向上し、熊本城公園への入込数の拡大に寄与するものである。令和2年度以降のバス乗車人数は、新型コロナウイルス感染症の流行による感染拡大防止のための減便や運休、外出行動の抑制によって減少している。</p> <p>【バス乗車人数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和元年度 (2019年度)</th> <th>令和2年度 (2020年度)</th> <th>令和3年度 (2021年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89,794人</td> <td>40,815人</td> <td>44,689人</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	89,794人	40,815人	44,689人
令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)					
89,794人	40,815人	44,689人					
事業の今後について	事業は、観光客等の熊本駅から市内中心部等への円滑な交通手段として定着しており、引き続き事業を進めていく。						

⑤. 中心商店街地区魅力向上事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】						
事業概要	中心商店街において賑わいイベント（STREET ART-PLEX KUMAMOTO）を年に数回開催する。						
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～R1年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（R4年4月～R5年3月）						
事業効果及び進捗状況	<p>中心商店街においてパフォーマンスイベントを開催することにより、質の高い中心商店街の賑わい形成を図るとともに、中心市街地内の回遊性向上を図る。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大規模なイベントの規模縮小等を余儀なくされ、集客数は減少している。</p> <p>【集客数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和元年度 (2019年度)</th> <th>令和2年度 (2020年度)</th> <th>令和3年度 (2021年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19,871人</td> <td>2,222人</td> <td>8,103人</td> </tr> </tbody> </table>	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	19,871人	2,222人	8,103人
令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)					
19,871人	2,222人	8,103人					

事業の今後について

中心商店街での多種多様な賑わい創出イベントとして定着しており、引き続き事業を進めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

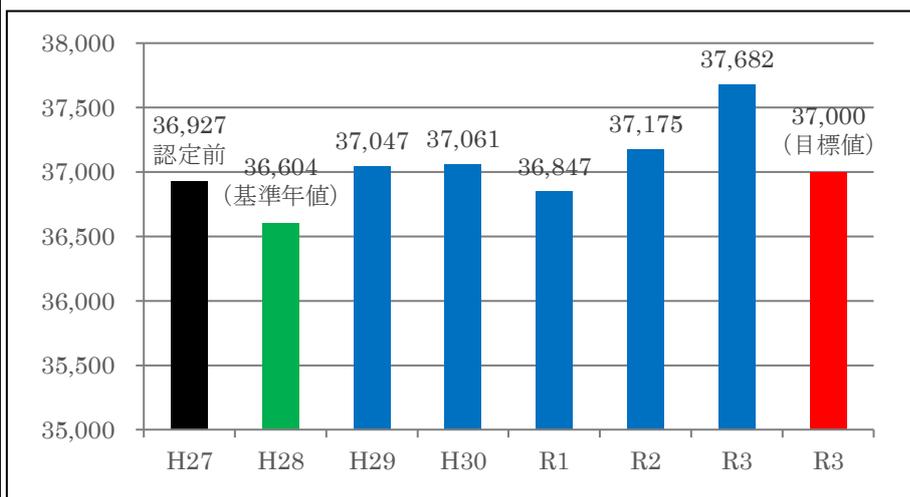
令和3年度は、熊本城の復旧過程を観光資源として活用する取組として、令和3年6月に天守閣内部公開（特別公開第3弾）を開始し、令和2年度と同様、熊本市内外の観光客に対し熊本城再建に高い関心を持っていただいたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数は目標値を大きく下回った。

しかしながら、今後、新型コロナウイルスワクチン接種が進んでいくこと及び新しい生活様式の浸透により、本市における交流人口の増加が期待されることに加え、令和4年3月から同年5月には第38回全国都市緑化くまもとフェアが開催されるため、目標達成は可能と思われる。

今後は、更なる賑わい創出に向けて、事業を着実に進めていき、熊本城公園（熊本城、城彩苑等）への入込数、及び桜町・花畑周辺地区で行われるイベント来場者数のさらなる増加を図っていく。

(2) 「中心市街地内の居住人口」 ※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 77～P. 79 参照

●調査結果と分析



年	(単位) 人
H28	36,604 (基準年値)
H29	37,047
H30	37,061
R1	36,847
R2	37,175
R3	37,682
R3	37,000 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳からの集計

※調査月：10月1日現在

※調査主体：熊本市

※調査対象：中心市街地内7校区の住民基本台帳登録者

(参考) 校区別居住人口の推移 (上段：人口(人)、下段：前年比)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
合計	36,927	36,604	37,047	37,061	36,847	37,175	37,682
	—	99.13%	101.21%	100.04%	99.42%	100.89%	101.36%
城東	3,242	3,290	3,253	3,223	3,176	3,070	3,021
	—	101.48%	98.88%	99.08%	98.54%	96.66%	98.40%
慶徳	3,623	3,572	3,671	3,624	3,548	3,814	3,838
	—	98.59%	102.77%	98.72%	97.90%	107.50%	100.63%

五福	3,798	3,727	3,942	3,866	3,838	3,924	3,999
	—	98.13%	105.77%	98.07%	99.28%	102.24%	101.91%
一新	9,767	9,801	9,836	9,933	9,926	10,026	10,140
	—	100.35%	100.36%	100.99%	99.93%	101.01%	101.14%
硯台	6,364	6,458	6,491	6,469	6,329	6,169	6,186
	—	101.48%	100.51%	99.66%	97.84%	97.47%	100.28%
古町	3,228	3,030	3,127	3,165	3,281	3,307	3,343
	—	93.87%	103.20%	101.22%	103.67%	100.79%	101.09%
春日	6,905	6,726	6,727	6,781	6,749	6,865	7,155
	—	97.41%	100.01%	100.80%	99.53%	101.72%	104.22%

〈分析内容〉

中心市街地全体では前年度と比較して人口は増加している。慶徳校区では令和2年・令和3年と居住人口が増加しており、同校区内の桜町再開発事業が令和元年度に完了したことが寄与していると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）〈再掲〉
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）

事業実施期間	平成20年度～令和2年度【済】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～R1年度） 防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29年度～R1年度）
事業効果及び進捗状況	本市の中心市街地における新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての機能を果たすとともに、全159戸のマンションの整備によって、中心市街地の居住人口の増加が図られる。 【スケジュール】 令和2年度（2020年度） 清算、事業終了

事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、居住人口の増加に寄与すると見込まれる。
-----------	---

③. 企業立地（誘致）促進事業（熊本市）

事業実施期間	平成11年度～【実施中】		
事業概要	熊本市企業立地促進条例に基づき、立地企業に対し助成を行う。		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年4月～R5年3月）		
事業効果及び進捗状況	令和3年度の企業立地件数は20件となり、製造業・情報関連産業等、様々な企業が立地している。また、立地企業の新規雇用予定者数は350人にのぼり、居住人口の増加に寄与している。 【当事業を活用した企業の立地件数】		
	令和元年度 （2019年度）	令和2年度 （2020年度）	令和3年度 （2021年度）
	12件	18件	20件
事業の今後について	事業は、積極的な誘致活動に加え、立地企業へのアフターフォローを充実させるなどの支援体制の強化によって、着実な企業立地に結び付けており、引き続き事業を進めていく。		

④. 街なか子育てひろば事業（熊本市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】		
事業概要	中心商店街に隣接する熊本市現代美術館内に「街なか子育てひろば」を開設する。		
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（H29年度～R3年度）		
事業効果及び進捗状況	街なかに、気軽に立ち寄れる子育て支援施設を設置することにより、誰もが子育てしやすい環境を提供し、ファミリー層のまちなか居住を促進する。利用実績は、令和2年度以降新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少している。 【利用実績】		
	令和元年度 （2019年度）	令和2年度 （2020年度）	令和3年度 （2021年度）
	19,186人	5,611人	3,244人
事業の今後について	事業は、子育てに関する相談や情報収集ができる場として、子育て世代に優しい居住環境を整備するためには必要であり、引き続き事業を進めていく。		

⑤. ファッションの街くまもと魅力創出事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】		
事業概要	若者・女性への訴求力が強いファッションイベントを開催する。		
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（H29年度～R1年度） 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（R2年4月～R5年3月）		
事業効果及び進捗状況	ファッションの発信地点として、とりわけ若者に高い影響力のある中心商店街においてファッションイベントを開催することにより、地域ファッション関連産業の活性化を図るとともに、若年層の地元就職率の向上にもつなげていき、若者等のまちなか居住を促進する。令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりファッションイベントの開催は行わなかった。		
	【イベント来場者数】		
	令和元年度 （2019年度）	令和2年度 （2020年度）	令和3年度 （2021年度）
	約9,600人	0人（イベント開催なし）	0人（イベント開催なし）
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症拡大以前は、ファッション産業の振興へ向けたコンテンツとしても次第に定着しつつあったことから、引き続き事業を進めていく。		

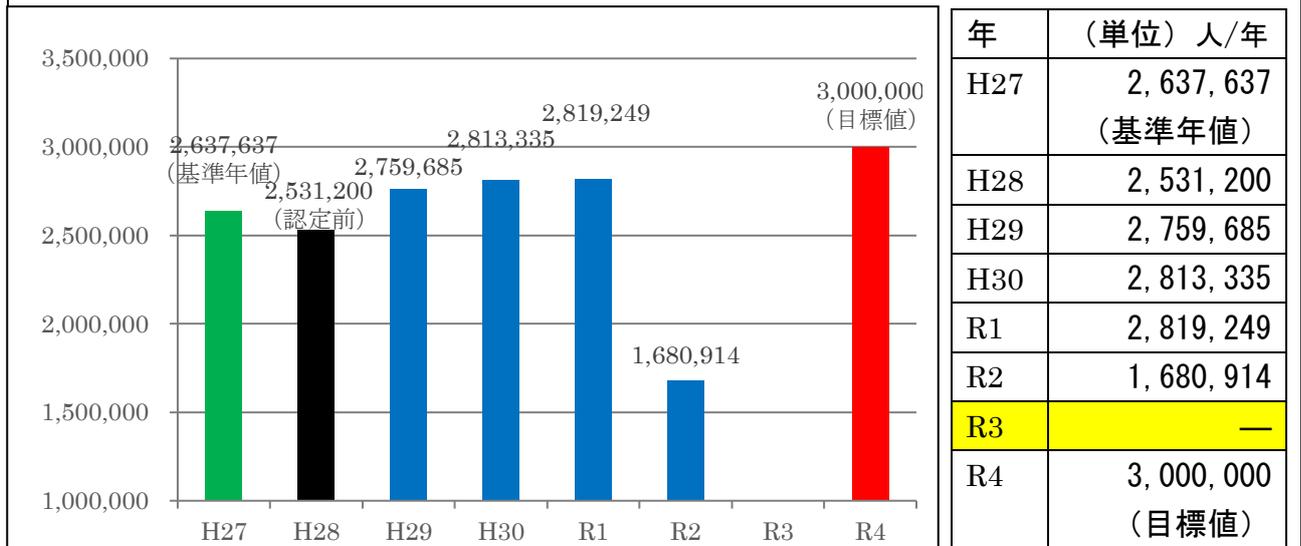
●目標達成の見通し及び今後の対策

企業立地件数が令和2年度を上回る件数となっており、それに伴って新規雇用予定者数も一定数確保できている。また、桜町地区再開発事業におけるマンション整備の影響もあるため目標達成は可能だと思われる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、街なか子育てひろば事業やファッションの街くまもと魅力創出事業といった多くの事業が予定通りに実施できなかった。今後は引き続き本市のビジネス環境等の優位性や都市機能の集積などを活かして、積極的に企業立地を促進し、産業の振興による雇用の拡大につなげていく。また、UIJターンの取り組みにより居住促進を図っていくとともに、子育て支援施設の整備に伴い子育て環境を充実させることにより、中心市街地の居住人口の増加を図っていく。

(3) 「熊本市内の宿泊客数」 ※目標設定の考え方は認定基本計画 P. 80～P. 82 参照

●調査結果と分析



※調査方法：熊本市内の宿泊客数調査からの集計

※調査月：毎年1月～12月

※調査主体：熊本市

※調査対象：市内のホテル、旅館、公共宿泊施設の年間宿泊客数

〈分析内容〉

新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、令和3年における市内宿泊客数については集計が完了していないものの、令和元年に比べ国内外からの来訪者が減少していることから、令和2年同様、中心市街地をはじめとする市内宿泊客数への多大な影響が継続することが想定されている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 桜町地区再開発事業（熊本桜町再開発株式会社）〈再掲〉
- ②. 熊本城ホール整備事業（熊本市）〈再掲〉

事業実施期間	平成20年度～令和2年度【済】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、熊本城ホール等の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（H29年度～H30年度） 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H29年度～R1年度） 防災・安全交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（R1年度） 防災・省エネまちづくり緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1年度） 災害時拠点強靱化緊急促進事業補助金（国土交通省）（H29年度～R1

	年度) 都市開発資金（市街地再開発事業等資金）（国土交通省）（H29 年度） 中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（H29 年度～R1 年度）
事業効果及び進捗状況	本市の中心市街地における新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての機能を果たすとともに、客室数約 200 室のホテルの整備によって、中心市街地の交流人口の増加が図られる。 【スケジュール（見込）】 令和 2 年度（2020 年度） 清算、事業終了
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、市内外からの来訪者の増加に寄与し宿泊客数の増加の一助となると見込まれる。

③. シンボルプロムナード等整備事業（熊本市）＜再掲＞

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】						
事業概要	熊本城と中心市街地との回遊性を向上させるため、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」としてシンボルプロムナードや花畑広場などのオープンスペースの整備を行う。						
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（桜町・花畑地区））（国土交通省）（H30 年度～R3 年度）						
事業効果及び進捗状況	令和 3 年 11 月から全面供用を開始したが、令和 4 年 1 月からは第 38 回全国都市緑化くまもとフェア（開催期間：令和 4 年 3 月 19 日～同年 5 月 22 日）の準備期間となり令和 3 年度の供用期間は約 2 か月であったため、工事開始前の令和元年度と比較して約 3 割の来場者数であった。 【花畑広場来場者数】 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>令和元年度 （2019 年度）</th> <th>令和 2 年度 （2020 年度）</th> <th>令和 3 年度 （2021 年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,026,716 人</td> <td>0 人（イベント等の開催なし）</td> <td>282,591 人</td> </tr> </tbody> </table> 【スケジュール】 令和 2 年度（2020 年度） 施設工事 令和 3 年度（2021 年度） 全面供用開始	令和元年度 （2019 年度）	令和 2 年度 （2020 年度）	令和 3 年度 （2021 年度）	1,026,716 人	0 人（イベント等の開催なし）	282,591 人
令和元年度 （2019 年度）	令和 2 年度 （2020 年度）	令和 3 年度 （2021 年度）					
1,026,716 人	0 人（イベント等の開催なし）	282,591 人					
事業の今後について	今後も本市の新たなランドマークとなる人、モノ、情報の交流拠点施設としての役割を担い、桜町・花畑地区のにぎわい創出の一助となると見込まれる。						

④. 熊本城マラソン事業（熊本市、民間事業者）

事業実施期間	平成23年度～【実施中】														
事業概要	約14,000人のランナーによるマラソン大会を開催する。														
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年4月～R5年3月）														
事業効果及び進捗状況	<p>エントリー者数における県外者の割合は、継続的に4割を維持しており、広報に工夫を凝らす等の事業の認知度向上の取り組みを進めることで、県外からの宿泊客数の増加に大いに寄与している。令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、マラソン大会の中止を余儀なくされた。</p> <p>【エントリー者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度 (2019年度)</th> <th>令和2年度 (2020年度)</th> <th>令和3年度 (2021年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エントリー者数</td> <td>25,355人</td> <td>0人(イベント開催なし)</td> <td>0人(イベント開催なし)</td> </tr> <tr> <td>うち県外</td> <td>10,066人 (40%)</td> <td>0人(イベント開催なし) (-%)</td> <td>0人(イベント開催なし) (-%)</td> </tr> </tbody> </table>				令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	エントリー者数	25,355人	0人(イベント開催なし)	0人(イベント開催なし)	うち県外	10,066人 (40%)	0人(イベント開催なし) (-%)	0人(イベント開催なし) (-%)
	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)												
エントリー者数	25,355人	0人(イベント開催なし)	0人(イベント開催なし)												
うち県外	10,066人 (40%)	0人(イベント開催なし) (-%)	0人(イベント開催なし) (-%)												
事業の今後について	事業は、本市の主要スポーツイベントとして県内外に広く定着してきており、引き続き事業を進めていく。														

⑤. 誘致戦略事業（熊本市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】														
事業概要	学会、大会などのコンベンション、コンサートや展示会等のイベント、企業研修やインセンティブトラベル等の誘致に取り組むとともに、受入環境の充実を図る。														
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（H29年4月～R5年3月）														
事業効果及び進捗状況	<p>コンベンションの開催件数においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、感染拡大防止対策としてコンベンションの開催の中止を余儀なくされ、大幅に減少している。</p> <p>【コンベンション開催状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年 (2019年)</th> <th>令和2年 (2020年)</th> <th>令和3年 (2021年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>313件</td> <td>67件</td> <td>103件</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>139,053人</td> <td>21,754人</td> <td>36,412人</td> </tr> </tbody> </table>				令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	件数	313件	67件	103件	参加人数	139,053人	21,754人	36,412人
	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)												
件数	313件	67件	103件												
参加人数	139,053人	21,754人	36,412人												
事業の今後について	熊本城ホールの完成により大規模なコンベンションの開催が可														

いて

能となったため、引き続き積極的に誘致することで、更なる市内外からの来訪者の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

熊本地震の影響に伴い市内の宿泊客数の落ち込みは顕著であったが、桜町再開発施設や熊本駅周辺の整備、熊本城の復旧といった事業が進み、また、ラグビーワールドカップや女子ハンドボール世界選手権大会といった国際的なスポーツイベントの熊本開催などにより、市内宿泊客数は順調に増加してきた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年における市内宿泊客数についてはまだ集計が完了していないものの、令和元年に比べ国内外からの来訪者が減少していることから、中心市街地をはじめとする市内宿泊客数への多大な影響が継続することが想定されている。

今後、新型コロナウイルス感染症拡大の沈静化を見据え、令和3年3月に完全復旧が完了した熊本城天守閣や、同月に完成した熊本駅白川口（東口）駅前広場、令和3年4月に開業したJR熊本駅ビル等の事業と連携を強化し、中心市街地の更なる賑わいの創出を図る。さらに、令和4年10月には国立病院総合医学会が予定されており、引き続きコンベンションや展示会といったイベント等の誘致を進め、より一層の宿泊客の増加に向けて事業に取り組んでいく。